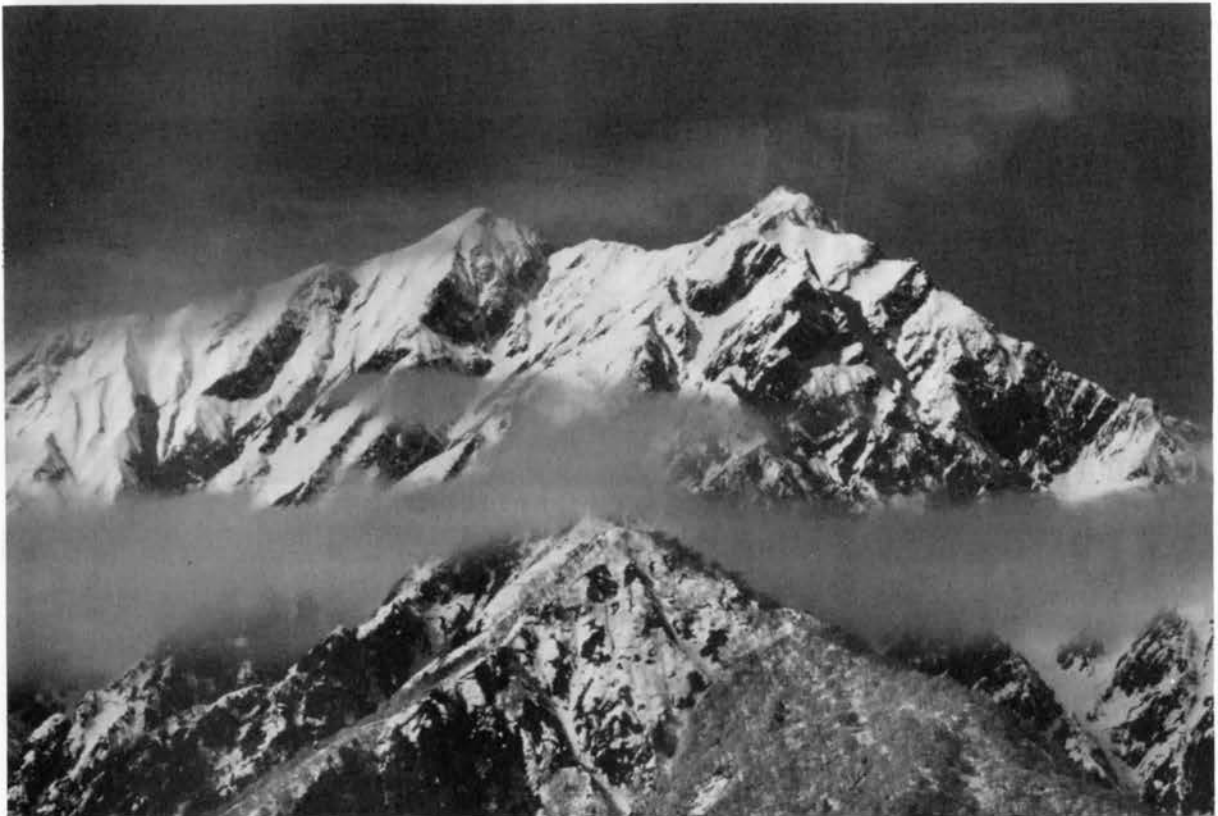


山と博物館

第37巻 第1号 1992年1月25日

大町山岳博物館



鹿島槍に魅せられて 写真と文 平林良一

私は、勤務の関係で、鹿島槍ヶ岳を間近に三十年近く眺めたり、語りかけたりしてきたが、日々表情があり、あきることを知らなかった。

春は、残雪の輝きと緑がやさしい。夏は、涼しい朝のうち、ぼんやりとした顔を見せ、十時頃には、はずかしそうに雲がくれ。秋は、お酒を飲んだかのように赤い顔がほころび、頂上から白い化粧をほどこし、やや誇らしげである。冬は、急峻な岩肌にも雪をのせ、風雪に耐えて何事にも負けない厳しい表情を見せる。

四季折々の絶景を惜しげもなく見せつけてくれる北アルプスの山並の中でも、なぜか私はこの双峰鹿島槍が大好きで、言葉を超えた感動に立ち尽くすことすらある。憂うつな時、滅入っている時など、外に出て鹿島槍と対面すると、必ず元気づけられたり、勇気づけられたりして来たものである。

美しく安定した、天を突く鋭い双峰の山容は、勇ましくも逞しくもあり、また、何とも言えず凛々しい。カクネの里に続く切り立った岩肌は、人をよせつけようとしなない構えがある。

鹿島槍ヶ岳を眺めるには、鹿島槍黒沢高原から木崎湖へ通じる林道か、トレッキングコースを歩くのが絶好で、そこはすばらしい撮影ポイントでもある。

私も下手の横好きで、大町の自然を写しては楽しんでるが、花を写しても、鹿島槍がファインダーに入ると、必ず一枚はバックに配してしまうという馬鹿ものである。

これからも、赤く染まるモルゲンロート、空と稜線のシルエット、刻々と変化する繊細な表情など、多彩な鹿島槍の瞬間と感動を、一枚でも多く写真として残したいものである。

この写真は、厳冬の午後、雲の演出に助けられ、鹿島槍ヶ岳がより一層美しく見えた感激の写真である。とかく自然に恵まれた街に住むと、そのすばらしさを忘れがちになるが、雄々しい北アルプスの山々に見守られる街、大町に住み、これだけの贅沢なロケーションを味わえることを幸せに思う。

アルプスの里を誇りに思い、貴重な財産をいつまでも輝かせながら、感動を忘れない大町の人であり続けたいと思うこの頃である。

(大町市在住)



山博友の会の一年

友の会事務局

山岳博物館友の会は、山岳博物館と密接に連携した相補的外郭組織である。

平成四年一月五日現在の会員数は、一名で入会する個人会員が六九名、同居の家族で入会するファミリー会員が一一〇家族四〇五名の計四七四名と、賛助会員一団体で、全体の五割を市内、残りの二割五分ずつを県内・県外在住者が占める。

活動は会員からの年会費(個人三五〇〇円、ファミリー一家族四〇〇〇円等)や参加費などを主な財源に独立会計でまかなわれている。

会員の特典としては、①山博への無料入館 ②本紙「山と博物館」の配布 ③年会報「ゆきつばき通信」の配布 ④山博の施設・資料の条件付利用 ⑤友の会主催行事への無料または実費参加などがあげられる。

ここでは、平成三年度の行事の概要を記し、友の会活動の報告としたい。

(講師等の敬称略)

総会 平成三年四月十四日

(参加者) 会員のみ二十四名

本会終了後、平成二年五月にチベットの未知の高原、チャンタンを踏査し、六千メートル級の未登峰ザンセルカンリに初登頂した会員の西田均さんに、スライドとビデオをまじえて踏査の苦労、チベットの自然と人に関する興味深い話をお聞きした。



薄暗いうちから小鳥の観察に出発

小鳥の声を聞く会 五月十一・十二日

(参加者) 会員二十二名 一般二十四名

(講師) 佐野昌男(鳥類)

清沢由之(自然全般)

千葉彬司(哺乳動物)

春の恒例行事。県山岳総合センター泊。一日目は夕食後に、野鳥や哺乳類、大町周辺の自然に関するスライドを見ながら予備学習をした。二日目は五時前に山博を出発。小鳥や植物を学習しながら鷹狩山中腹まで歩いてブタ汁と山菜の天ぷらで朝食をとった。当日声や姿を確認できた鳥は三十五種類で、フクロウを目撃できた好運な参加者もいた。

大出周辺の自然と文化財めぐり

大町市教育委員会と共催 六月二十三日

(参加者) 会員二十五名 一般六名

(講師) 宮田 渡(生物)

篠崎健一郎(歴史・考古)

一昨年春の青木湖に続く、市教委共催の自然と文化財めぐりの第二弾。大町市平野口の大出地区周辺は、高瀬川・竜川・鹿島川の合流地点にあたり、段丘と湧水に代表される自然環境が今なお残り、また古くから人々に利用されてきた。当日は東京電力高瀬川テブコ館↓佐々成政の針ノ木越えゆかりの西正院大姥堂↓湧水地帯↓縄文前期を中心とする上原遺跡の順に歩いた。

博物館めぐり 山博と共催 七月十三日

(参加者) 会員のみ二十五名

次年度に予定されている山博の展示替えの参考もかねて、最近オープンした飯田市美術館・諏訪市博物館・ハートモ美術館(下諏訪町)の3館を見学した。展示内容や方法、建物の外観や間取りに個性を打ち出した新しい傾向を教えられた。

販売ボランティア活動

七月二十一日〜八月二十五日

(参加者) 会員のみ四十四名

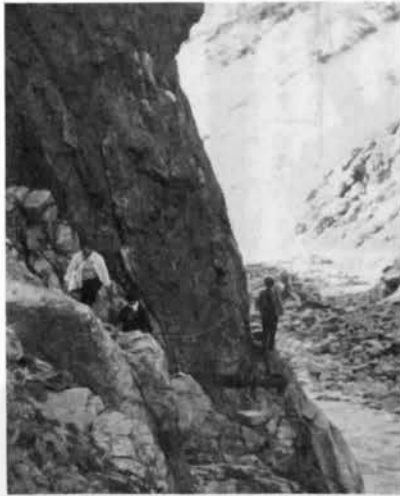
山博の夏の特別展「宮崎学動物写真展」の会期に合わせて、半日単位でのべ百三十名が、宮崎さんの写真集や絵葉書などを館内の仮設売店で販売した。長期にわたるボランティア活動であったが、博物館や館の職員との親近感も増し、会員相互の交流も深まったものと思われる。収益は全額、会と会員全体の利益となる用途に使われることとなった。



上原遺跡にて



大出湧水地帯にて



改修された湯俣噴湯丘への棧道

木崎湖の魚に親しむ会 十一月十日
(参加者) 会員のみ九名
友の会初の試みとして、ワカサギのボート釣りを楽しんだ。初心者も多く、はじめはトラブル続きだったが、やがてコツも飲み込めてそれなりの釣果を上げることができた。見えない魚の動きを、糸を通して想像するのまた面白い。湖面ごしの初冬の湖の景観も新鮮であった。

キノコ学習会 九月二十九日
(参加者) 会員六名 一般十三名
(講師) 長沢正彦
山博の『秋の草花とキノコ展』に合わせての恒例行事。裏山を歩いて名まえや生える場所、生え方を实地勉強したが、少し時季が早く種類も少なかつたのは残念だった。



ハーモ美術館にて

黒部溪谷探勝会 十月九日
(参加者) 会員のみ二十名
(役員) 宮田 渡 有川美保子
関西電力のご好意で、黒部ダム〜黒四発電所〜樺平〜宇奈月のコースをたどり、地下発電の各施設と溪谷の自然を探勝した。今回は日帰りということで、列車の乗り継ぎに忙しい旅ではあったが、車中にて参加者の親睦がより深まった。
秋の自然観察会 十月二十日
―秋深まる高瀬溪谷、湯俣温泉と噴湯丘を訪ねて―
(参加者) 会員のみ三十名
(講師) 武田 武
東京電力のご好意で、車の通行許可をいただき高瀬ダムを経由してバックウォーター地点へ。ここから徒歩で湯俣温泉、国の天然記念物噴湯丘へ向かった。水量が多く、残念ながら噴湯丘は対岸から眺めることとなったが、槍ヶ岳も遠く望める好天に恵まれ、高瀬谷の秋を味わうことができた。いたんでいた湯俣温泉、噴湯丘間の棧道も九月に改修され、通りやすくなった。

春の写生大会 五月六日
山博・市教委・中日新聞社と共催
(参加者) 主に市内児童生徒 一四四名
山岳博物館主体で行われる春の恒例行事。博物館と付属園周辺で、動物・風景・草花など自由な題材に筆を走らせた。全作品の中から三十二点を選び、第36回中部地方動物園水族館写生コンクール中央審査に提出。県知事賞・県教育委員会賞・日本動物園水族館協会賞など各賞を受賞した。すべての作品は六月十六日〜二十三日の間、山博の『動物写真画展』で公開された。
歩くスキ一の会 平成四年二月二日予定
昨年に続き、大町市と美麻村にまたがる権現山(一二二メートル)周辺がコースである。天候が良ければ、スキーを脱いで山の頂往復や、動物の足跡の観察も計画している。
(講師) 渡辺逸雄 西田 均(スキー)
宮田 渡(自然全般)

友の会の活動の中心であるこれらの行事のほとんどは、老若を問わず初心者を対象の基準として開催している。今後、様々な会員の知識や経験度を考慮した参加しごたえのある内容、あるいは行事の開発が求められよう。そのためには役員の皆さん、講師の先生方はじめ多くの方々のさらなる協力を仰がねばならない。そして将来、会員相互が主体的に学びあい、創り出す活動へと発展することを願っている。
―友の会では常時、会員を募集しています。入会方法その他お気軽に、博物館内、友の会事務局へご照会ください。―



湯俣へ出発 バックウォーターにて



木崎湖でワカサギを釣る

ネパール、少し昔の話(後)

藤江 幾太郎

結局東京からの参加者は五名(全員おいらく山岳会員)だった。同年十月十九日羽田発、カルカッタ一泊の上、カトマンズ着、全員二十四名ホテル・シャンカールに落ち着いた。行先別の隊員はエベレスト班十六名、アンナプルナ班八名だった。

私の属するアンナ班は、カトマンズから小型機でポカラに向かった。空港には、親日家のインドラ・マン・セルチャンが迎え、一緒にポカラ湖に遊び、ポカラをとりまくアンナプルナの白銀の大氷壁に圧倒された。空港前のホテルで会食の後、その夜はバザールに

ある同氏の豪邸(白い館)に泊めてもらったが、そこにはバザールにいるタカリ商人の面々が我々を待ち受け歓迎してくれた。彼等は我々日本人と顔つきや身体が酷似しているばかりでなく、気持ちまでよく似て、不十分な英会話でも互に心が通じ合い、永年の交友のような気がした。

一行は翌日からマチャブチャレ峰山麓のトレッキングに出かけたが、私は画作のため白い館に残った。トレッキングの後、一行と共にI・Mセルチャンはカトマンズに向かうので、私はバザールの大きな布地店アムリツ・セルチャン方に移され、大変お世話になり、心おきなく充実した画作が出来て有難かった。当時の感激を拙い日記帳から抜粋してみよう。

今静かに旅路を振り返って見ると、それは今日の日常生活とは断絶した全く異った世界を巡って来た感じが深い。羽田のゲートを出てから、子供達が待ち受けていた羽田のゲートに戻るまで大きな言い方をすれば、SF小説の四次元の世界に迷い込んだ様な、夢幻的な感じが今でも強烈に残っている。その世界で、ネパールの人達が如何に心から歓迎してくれたか……言語は半ばしか通じない英語だけだったが、お互の心と心をつなぐ強いきずなを意識しないではいられなかった。



ポカラ 白い館の眺め① (藤江画)
ミルワの丘の上に左からアンナプルナウス、ヒウンチュリ(中央)、アンナプルナ主峰の峰々。

今静かに旅路を振り返って見ると、それは今日の日常生活とは断絶した全く異った世界を巡って来た感じが深い。羽田のゲートを出てから、子供達が待ち受けていた羽田のゲートに戻るまで大きな言い方をすれば、SF小説の四次元の世界に迷い込んだ様な、夢幻的な感じが今でも強烈に残っている。その世界で、ネパールの人達が如何に心から歓迎してくれたか……言語は半ばしか通じない英語だけだったが、お互の心と心をつなぐ強いきずなを意識しないではいられなかった。



ポカラ 白い館の眺め② (藤江画)
マチャブチャレとアンナプルナ主峰(右)。中央黒いのはビンドゥバシニ寺の鎮守の森。



ツクチェ郡長の館 玄関正門
2階は広い仏間。この館の主は先年他界し、今は奥さんと息子が住んでいる。

二十余年経った。数多い交友の内、中心だったインドラマン・セルチャン、ツクチェの郡長館の主ゴビンドマン・セルチャンが先般相ついで他界、ポカラの豪邸白い館も崩壊寸前である。時の流れは全くクールで残酷だ。

—文中敬称略—(画家)

博物館だより

資料寄贈ありがとうございます
シヤモア頭部複製 2点

足立源一郎使用スキー等 12点
大町市北原町 荒澤進

ピデオテープ 6点 東京都墨田区
山梨県河口湖町 足立朗

油絵 1点 F50号
オートスライドプロダクション
千葉市千城台北 後藤三男

貝類標本 3点 松本市元町 藤田敬
山川勇一郎絵画 F3号等 2点 (寄託)
東大阪市出雲井本町 福岡義夫

新収蔵絵画の展示
次の油絵を1階特別展示室に新たに展示しました。
・茨木猪之吉『穂高湖沢池ノ平』F8号
・足立源一郎『日暈』F10号 (以上購入)
・山川勇一郎『菅平から浅間山を望む』F3号 (寄託)
・後藤三男『安曇野の春』F50号 (寄贈)

—計報— 当館顧問、日本山岳会名誉会員の谷口現吉さんが、1月21日10時53分市立大町総合病院にて急逝されました。享年81才。
慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

山と博物館第37巻第1号
一九九二年一月二十五日発行
発行所 長野県大町市 TEL0267-2211
印刷所 長野県大町市 大町山岳博物館
大町山岳博物館
大糸タイムス印刷部
定価 年額一、三〇〇円(送料共)切手不可
郵便振替口座番号(長野四一)三三九二